

# 北東アの平和、楽観できる が北朝鮮のソ連接近に注目

## 日韓米セミナー開く



三日、東京・内幸町の日本プレスセンターで行われた日韓米セミナー（白黒、深撮影）

日韓米の国際政治専門家によるセミナー「レーガン政権と北東アジア」（サンケイ新聞、フジサンケイグループのディフェンス・インフォメーション・センター主催）は、三日午後一時から五時まで、東京・内幸町の日本プレスセンターで行われた。席上、レーガン米政権がカーター政権前期の在韓米軍撤退計画を完全に修正したのをはじめ、米中ソ三大国の動向からみて、朝鮮半島を中心とする北東アジアの今後の安全保障は全体的に楽観的にみる事ができるという点でほぼ一致をみた。だが、同時に、朝鮮半島をめぐる状況は、今後も、あいまいさを含んでおり、とくに北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）がソ連に接近するかどうか注目点であることが指摘された。

三日、東京・内幸町の日本プレスセンターで行われた日韓米セミナー（白黒、深撮影）

・東京外語大学教授、寺谷弘主・青山学院大学教授、塚本勝一・サンケイ新聞各員論説委員が出席、柴田穂・サンケイ新聞コラムニストがコーディネーターをつとめた。討議では、まず寺谷教授から「八〇年代における総合安全保障」、朴教授から「同盟体制強化の可能性と限界性」の二つのレポートが提出され、これに基づいてパネル・ディスカッションが行われ、最後は会場からの質疑応答が行われた。

北朝鮮ソ連の接近については、「北朝鮮は、一、二、三年連署のなりつつある兆候がある」（寺谷教授）、「北朝鮮政権がソ連のふくまに飛び込む可能性は高いとはいえないが、その可能性を軽視してはならない。また、この状況を克服すべきだ」（朴教授）、「ソ連の脅威に対して、日米韓が北東アジアの安全保障を固めすぎると、ソ連と北朝鮮が接近し、これが南北の自主解決を損なうというジレンマがある」（中嶋教授）などの意見が出された。

レーガン政権の朝鮮政策については、在韓米軍撤退中止が今後の北東アジアの安全保障について重要な意味を持つという評価が一致して出された。そして、「レーガン政策は、基本的には（在韓米軍撤退中止決定以後の）カーター政権後期の政策を踏襲しているものである」（神谷教授）、「米国の韓国政策は、北朝鮮の軍事増強に対応していくというものではなく、韓国軍の近代化など、韓国防衛力の強化に重点がある」（塚本氏）などの意見が出された。

そして、今後の北東アジアの安全保障については、「米中ソなどの周辺大国は、今後いっそう朝鮮半島への関心を低めてゆくだろう。これが南北朝鮮の自決と安定に導くだろう」（神谷教授）、「レーガン政策は、歴史的転換をはかろうというものではない。米国の対ソ軍事力の低下はみかけほどのものでなく、また、中ソ対立が続くことを考えると、北東アジアの今後の安全保障は楽観的といえる」（ジョー教授）などの見通しが語られた。

私は、しつ  
する。機出  
するが、彼  
&ウオーマ  
する。とし  
と語りかけ

大和  
一不二編社

以上の情勢の中の、あいまいさを認識しつつ政策を慎重に進めるべきだという意見が強く出されると同時に、今後の北東アジアの安全保障を安定化するために「日本の戦力増強が必要であり、日本は憲法九条、非核三原則、GNP1%以内の防衛費などというスローガンのな規範から脱すべき時代がきている」（朴教授）という意見が出された。

このほか、中ソ関係については「中国内政の変化と西側諸国との経済関係を展望するとき、中ソ関係が改善される蓋然性は大きい」（中嶋教授）という見解も出された。

【川中子 真編集委員】